

CFP®試験 合格への道

試験当日、2分の遅刻 猛省して次回に臨んだ

三田泰久さんは、ホテルや旅館、なかでもB & B (Bed & Breakfastの略)と呼ばれる新しい業態の宿泊施設のコンサルティング業務を主とする会社を昨年1月に立ち上げたばかり。

CFP®資格を活かして、ファイナンシャル・プランナーとしての仕事も、業務メニューに加えている。

CFP®試験の勉強を始めた当時は、株式公開に向けて準備を進める経営企画室に籍を置く一サラリーマンだった。

「試験のたびに不合格課目はすべて合格するつもりで、“全課目制覇”を目指して申し込むのですが、実際には試験間際になると、準備不足は否めず、最も合格に近そうな課目1~2課目に絞ってラストスパートで追い込む、ということを毎回繰り返していましたね」

ハードなサラリーマン生活との二足のわらじでは、勉強のための時間を確保することが、第1の課題だったという。そんな経験上、

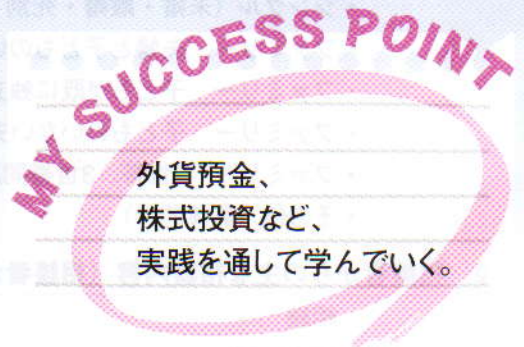
「学習時間が確保できない場合には、欲張らないで、課目を絞って勉強するのが、遠回りに見えて、案外、合格への近道なのかもしれません」

そう当時を振り返るが、実は三田さんには、試験にまつわる大きな失敗談がある。電車の乗り継ぎを間違えて、試験開始時間に2分ほど遅刻するという失態を犯してしまったのだ。

「2分でも遅刻は遅刻。結局、その課目は受験が許されず、控え室で次の課目の試験の準備をするしかなかった。そもそも試験に臨む姿勢がなっていないかったと猛省しました」

そのことがあって三田さんは一念発起。毎朝5

「知識」を「知恵」として定着させる、
「本当の勉強」をしたことが勝因です。



時には起床。6時には出社し、始業前の2時間を確実に勉強に充てるようにした。

そんな三田さんが、勉強するうえで心がけていたことがある。具体的には、次のようなことだった。

「例えば、毎日、日経新聞を読んでいるとCFP®試験の学習内容に関連する記事が必ずあります。それと同時に、CFP®の勉強をしながら、“新聞でよく目にするこの言葉は、こういう意味だったのか”と再確認することも多かった。つまり、知識を学習する→日経新聞を読む→実践的な知恵に高める→新たな知恵をつみ重ねる、というサイクルのなかで勉強していくことが大事だと気づいたのです。そうすると、通りいっぺんの知識だったものが、しっかりと自分のものとして定着していくのを実感しました」

その一環として、外貨預金、株式投資などの資産運用などにもチャレンジ。

「含み損を抱え、授業料を払っていた時期もありましたが、その後、しっかり学習効果が出ましたよ」と笑う。

「FPに対する認知度や理解・浸透度はこれからです。微力ながら、力を尽くしていきたいですね」そう今後の抱負を語ってくれた。



さん だ や す ひ さ
三田泰久さん

三重県
株式会社アーリー・バード 代表取締役

三田さんのサクセスロード

- 1999年 8月 AFP資格登録 CFP®資格取得を目指し、勉強を開始
- 2002年11月 全6課目を受験。「タックスプランニング」合格
- 2003年 6月 不合格課目 全5課目を受験。「不動産運用設計」「相続・事業承継設計」に合格。
- 2003年11月 不合格課目全3課目を受験するつもりが、「金融資産運用設計」の試験に遅刻。受験できず、残り2課目「ライフプランニング・リタイアメントプランニング」「リスクと保険」のみ受験、合格
- 2004年 6月 6課目目の「金融資産運用設計」に合格



体験談募集!! CFP®試験の合格体験談、勉強法などを募集しています。①会員番号②氏名③昼間の電話ご連絡先 を明記のうえ、Eメールにてご応募ください。形式は自由(原稿は返却いたしません)。採用の折には編集課より、あらためてご連絡いたします。なお、採否のお問い合わせにはお答えしかねます。悪しからずご了承ください。体験談送付先 ⇒ journal@jafp.or.jp 「合格体験談」係